

北大教員も「ノー」声明

賛同 1週間で167人に

北大の教員有志が、安全保障関連法案の廃案を求める声明をインターネット上で発表した。文学部の3人の発起人を含め、法学部や農学部など文系、理系にまたがる20人の教員が呼び掛け人となって北大教員に賛同者を募ったところ、7日までに167人が加わった。教育や研究の現場から、反対の声が広がっている。

2日から公開している声明では、安保法案が集団的自衛権の行使を認めることを「明らかな憲法違反」としたうえで、安倍晋三首相が「憲法学をはじめとする数々の学問的蓄積を無視」

し、「民主主義と立憲主義を軽んじていること」に「深刻な懸念」を抱いていると表明。「未来世代に希望ある社会を手渡すために、戦争を止める知性を、平和をつくる知性を求めつづけてま

す」と結ぶ。

北大生だった宮沢弘幸さんらが太平洋戦争開戦当日に軍機保護法違反容疑で逮捕された「レイン・宮沢事件」にも言及。同法の再現と言われる特定秘密保護法

が「昨年12月に成立したことなどを挙げ、言論や研究の自由が脅かされているとの危機感を示した。

発起人の一人で環境社会学が専門の宮内泰介教授(53)は「民主主義が根底から覆されようとしている今、教育者として、研究者として、憂慮や怒りの声を上げることが大事だと思った」と話す。北大の教員は全体で約2千人。関係者は賛同の輪がさらに広がることを期待している。声明はネット(<https://sites.google.com/site/hokudaiampo/>)

で読むことができる。

道内では他に、札幌学院大と北海道教育大釧路校の有志も安保法案に反対する声明を出している。全国の大学の研究者でつくる「安保法案に反対する学者の会」の声明への賛同は7日までに1万3千人を超えた。

